

キラリ通信



～映像で男女共同参画を考えてみましょう～

DVD 上映
6月29日開催

マダム・ イン・ニューヨーク



女性の活躍と進出を考える
素敵な物語

インドの国民的女優のシュリデヴィ・カプールが2012年に出演した映画です。行先の見えない昨今ですが、今以上に女性が自分らしく自由に生きていける社会になってほしいと思います。

あらすじ

普通の主婦シャシは、ビジネスマンの夫、2人の子どものために日々家事をこなしていますが、家族の中で唯一英語ができないことが悩みでした。ある日親戚の結婚式の手伝いを頼まれ単身渡米するも、英語が話せないため辛い思いをします。そんな時、英会話学校の広告を見つけた彼女は学校へ通い始め、仲間と学ぶうちに夫に頼るだけの主婦からひとりの人間としての自信を取り戻していきます。



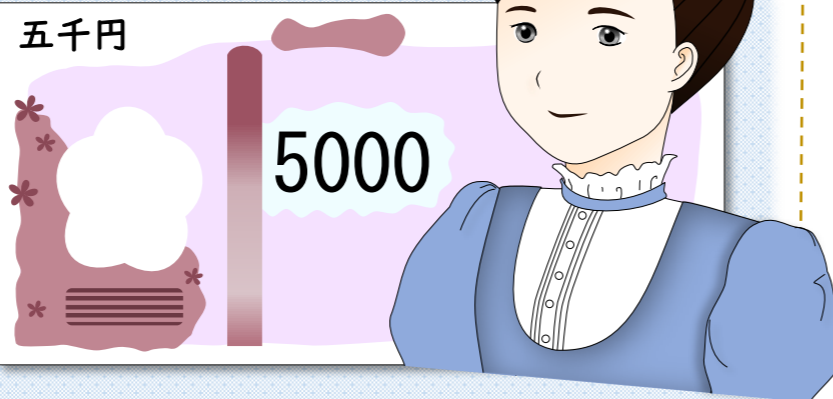
2024 年度に発行される **新五千円札** の肖像

津田梅子の生き方

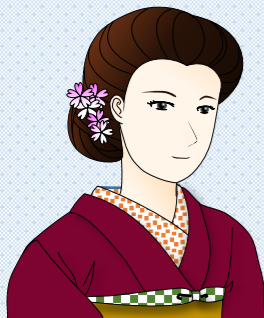
津田梅子の生きた明治時代は、それ以前の「女性は男性に従うもので、女性教育は家庭内でするものだ」という旧（古い）体制からの脱却でした。それを受け欧米諸国を実際に見るべく、岩倉使節団が結成されました。また、1886年「師範学校令」によって、初めて女子師範科が作られました。

※岩倉使節団：使節団の中の一つに女子留学生も含めるべきだとされ、5名が選ばれました。しかし、その内2名が健康を害し帰国しました。したがって、津田梅子と青森県士族出の山川捨松、静岡県士族出の永井繁子の3名が個別のアメリカ人家庭に預けられることになりました。

津田梅子は、佐倉（現千葉県）藩主の父と母の間に1864年12人兄弟の次女として誕生しました。ちょうど幕末の騒乱期で4年後には明治維新を迎える激動期でした。そのような中、父が相当に西洋言語と文明に精通しており、娘梅子もそのDNAを多大に継承していたようです。梅子はわずか7歳で渡米し17歳で帰国しますが、母国の男尊女卑の姿に新たな女子教育の必要性を感じ、再び25歳になって独りでアメリカに留学することにしました。最大の理由は、高い学問を修めて女子の高等教育を行う学校をつくるためでした。3年後の28歳でアメリカ滞在を終え、1900年に私学として女子英学塾（津田英語塾）を開校することになりました。良妻賢母が当たり前の時代でしたが生涯独身を貫き、日本女性の知的開放にその生涯を捧げたのです。



山川捨松は、陸軍幹部の夫と結婚し2男1女をもうけ、愛国婦人会、日本赤十字社篤志看護婦人会での活動の先頭に立って間接的に戦争を支援するのに一生懸命でした。夫が軍のトップだけにその妻は関与する必要があったと思われるのですが、生涯、良妻賢母を貫き通しました。



永井繁子は、アメリカ留学時代に芸術コースを専攻しました。夫は海軍軍人として、繁子は東京音楽学校と女子高等師範学校の教授をする共働きの夫婦でした。また4男3女を立て続けに出産し、夫婦ともフルタイム労働で、家事、育児の重圧があったと思われます。



共通点や異なる点がありますが、それぞれの人生を送った三人を現代の女性に当てはめて考えるのも興味深いですね。

結婚を含めた女性のライフコース

国立社会保障・人口問題研究所は、一人の女性が送る人生のタイプについて、とくに仕事、結婚、子育ての組み合わせにおける主要な5つのタイプ（女性のライフコース）を以下のように設定しました。

専業主婦コース	再就職コース	両立コース	DINKSコース	非婚就業コース
結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない	結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ	結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける	結婚するが子どもは持たず、仕事も一生続ける	結婚せず、仕事を一生続ける

～コラム～

昭和30年代生まれの私ですが、我が家では女性は適齢期になれば結婚するのが当たり前という考えでした。ですから私が20歳代のころは、世間の目もあり、行き遅れないようかなりプレッシャーをかけられた記憶があります。今の時代は、どのコースを選択しても誰も何も不思議に思わなくなっているようで、随分自由に自分の生き方を考えることができるようになったと思います。しかしながら、少子化問題は難問題です。どのコースを選んでも、良かったと思える社会になってほしいです。(T.I)

女性の地位向上は…

2005年5月28日の朝日新聞記事で、野田聖子衆議員の言葉を紹介しています。「(専業主婦が家を支える) サザエさんの時代を取り戻したいという願望は、今でも永田町と霞が関の大多数のおじさんたちの心の中に生きている」と批判しました。それから17年。三浦まり・上智大学教授(ジェンダーと政治)は、「野田さんが指摘する状況は今も全く同じ。衝撃ですね」と話しています。また「高齢出産は普通になったけれど、介護や子育ての負担が女性にのしかかっているのは変わっていない。」そして毎年6月に男女共同参画週間があり、3月の国際女性デーも浸透した。三浦さんは「こうした特別な期間は、普段注目されにくい埋もれた問題を深掘りする良い機会。表面的な華やかさだけでなく、差別など深刻な問題にも着目するべき」と話しています。女性やマイノリティーの地位向上はいまだ道半ばというところです。

2022年4月9日 朝日新聞より

女性がどのような選択を選んでも、まだまだ険しい道には変わりありません。一人ひとりが豊かな人生を歩むために、性別にかかわらず、家庭・職場など、あらゆる分野で個性と能力を発揮していける社会を目指して、女性センターでは男女共同参画週間の期間中に街頭啓発活動、パネル展示やDVD上映会を開催しています。ぜひ、ご覧くださいね。



男女共同参画週間 <6月23日(木)～29日(水)>

令和4年度男女共同参画週間キャッチフレーズ

「あなたらしい」を築く、「あなたらしい」社会へ



男女共同参画週間は、毎年6月23日から29日の一週間が啓発期間となっています。啓発期間には、街頭啓発活動やDVD上映会、広報誌への掲載、男女共同参画啓発パネル展示及びパンフレットの配架を実施しています。

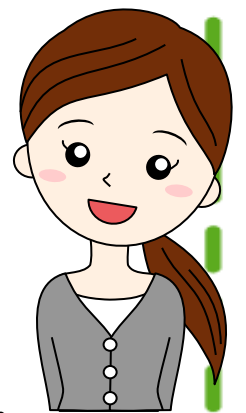
女性相談 <相談無料・秘密厳守>

ひとりで悩んでいませんか？

女性センターでは、女性の様々な問題をともに考え、自分自身の方で一歩を踏み出していただけるようにお手伝いします。相談はすべて無料。秘密は厳守します。安心してご相談ください。

一般相談 <面接・電話> 毎週金曜日(祝日を除く) 午後1時～3時
女性相談員が、あなたの悩みや問題をお聴きします。

こころとからだのカウンセリング <面接のみ> ※要予約
女性の専門医が、あなたのこころやからだの悩みの相談にあたります。



木津川市 市民部 人権推進課
木津川市女性センター
〒619-0223
木津川市相楽台4丁目3
☎0774-72-7719

利用時間：午前9時～午後5時
休館日：月曜日・祝日・年末年始

